



太陽の力が欲しい。



その輝く美しい力にあこがれたカクタ博士は
研究に研究を重ね、
ようやくその力を手に入れようとしていました。

ところがどういうわけか

地上では 輝く美しい力ではなく



黒い雲となってしまうのです。



博士はさらに研究に研究を重ねます。

国王も太陽の莫大な力に魅力を感じており

博士に全面的に資金協力しました。



がんばってくれたまえ



長い研究の後ようやくその力を
改造人間の中に閉じ込めることに
成功したのです！
それがわれらのゲンパツマンです！

おりから地球はオندانカイジユウの脅威に
襲われつつあったので
待ち焦がれていたヒーローとして活躍しました。





太陽ビーム!

やったあ！

ベツカーン!!

有名な俳優さんと国王と一緒に
ゲンパツマンのCMも力が入ります。

ゲンパツマンは
オندانカイジュウに
立ち向かえる唯一の希望です。
我々の美しい生活を
美しく守ってくれる
たのもしい友人です！

ゲンパツマン
ありがとう

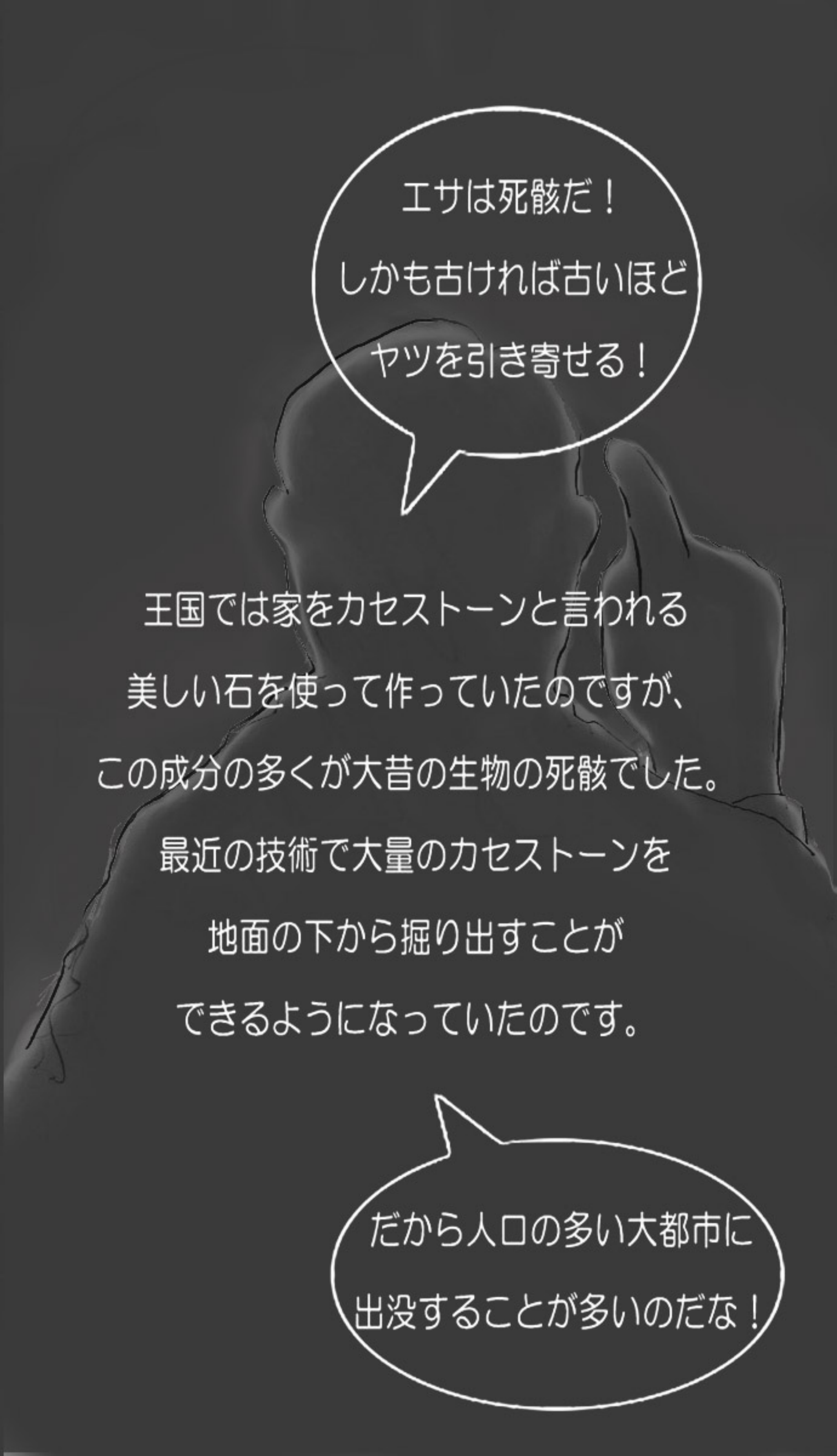
国王は力強い味方を手に入れご満悦です。

博士も莫大な研究費を手にし
さらに強いヒーローの研究にも取り組んでいます。



なぜオンドンカイジュウが
現れるようになったのだ？

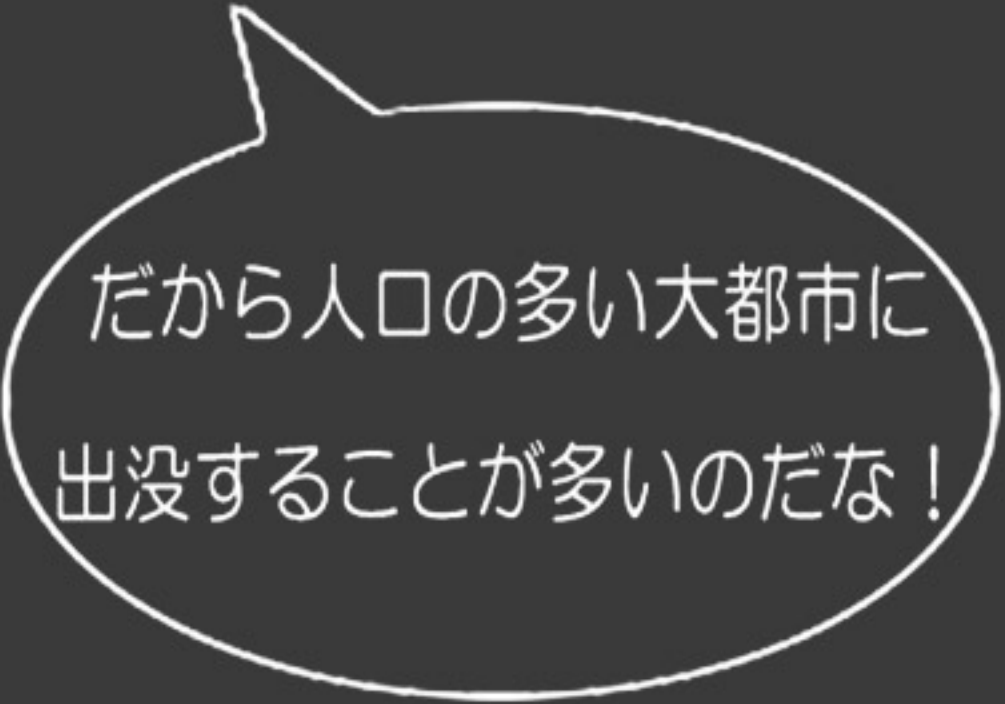
オンドンカイジュウを研究していたゴア博士は
その怪獣の行動パターンを分析して
オンドンカイジュウのエサを突き止めたのです。



エサは死骸だ！
しかも古ければ古いほど
ヤツを引き寄せる！

王国では家をカセストーンと言われる
美しい石を使って作っていたのですが、
この成分の多くが大昔の生物の死骸でした。

最近の技術で大量のカセストーンを
地面の下から掘り出すことが
できるようになっていたのです。



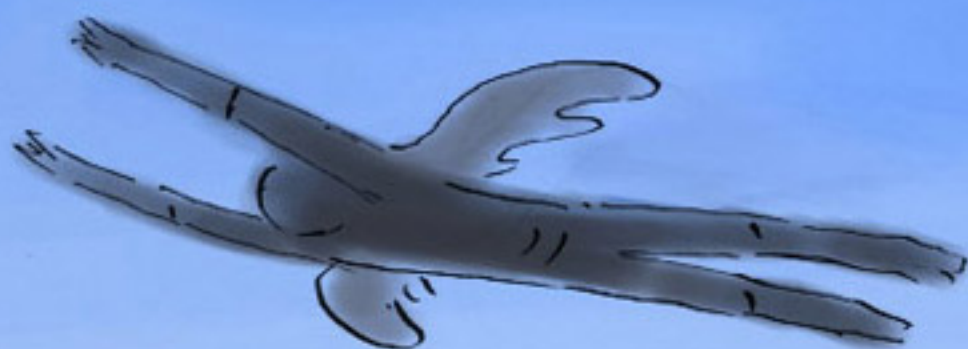
だから人口の多い大都市に
出沒することが多いのだな！

ある村に小さなオンドンカイジュウが現れました。

いつものようにゲンパツマンがやって来て

いつものように太陽ビームを放ち

オンドンカイジュウをやっつけて帰っていきます。



それを見ていた若きカゼノ博士は
太陽ビームで無残に焼き払われた木々を見て考えました。



もっとふるさとを傷付けない
方法もあるのではないかな？



そして彼女が
作ったのが
フウシャマンでした。

フウシャマンはゲンパツマンに比べるととても小さく
力も弱くて頼りになるヒーローには見えませんでした。



フウシャマンが
もたもた戦っているうちに
ゲンパツマンが来て
太陽ビームで一気に解決し
去っていきました。



これじゃあ国王も
援助してくれないよな

そう肩を落とすカゼノ博士に
戦いを見ていたひとりの女性が援助を申し出ました。
その後フウシャマンは各地にポツリポツリと作られて
10人ほどの兄弟たちができたのです。

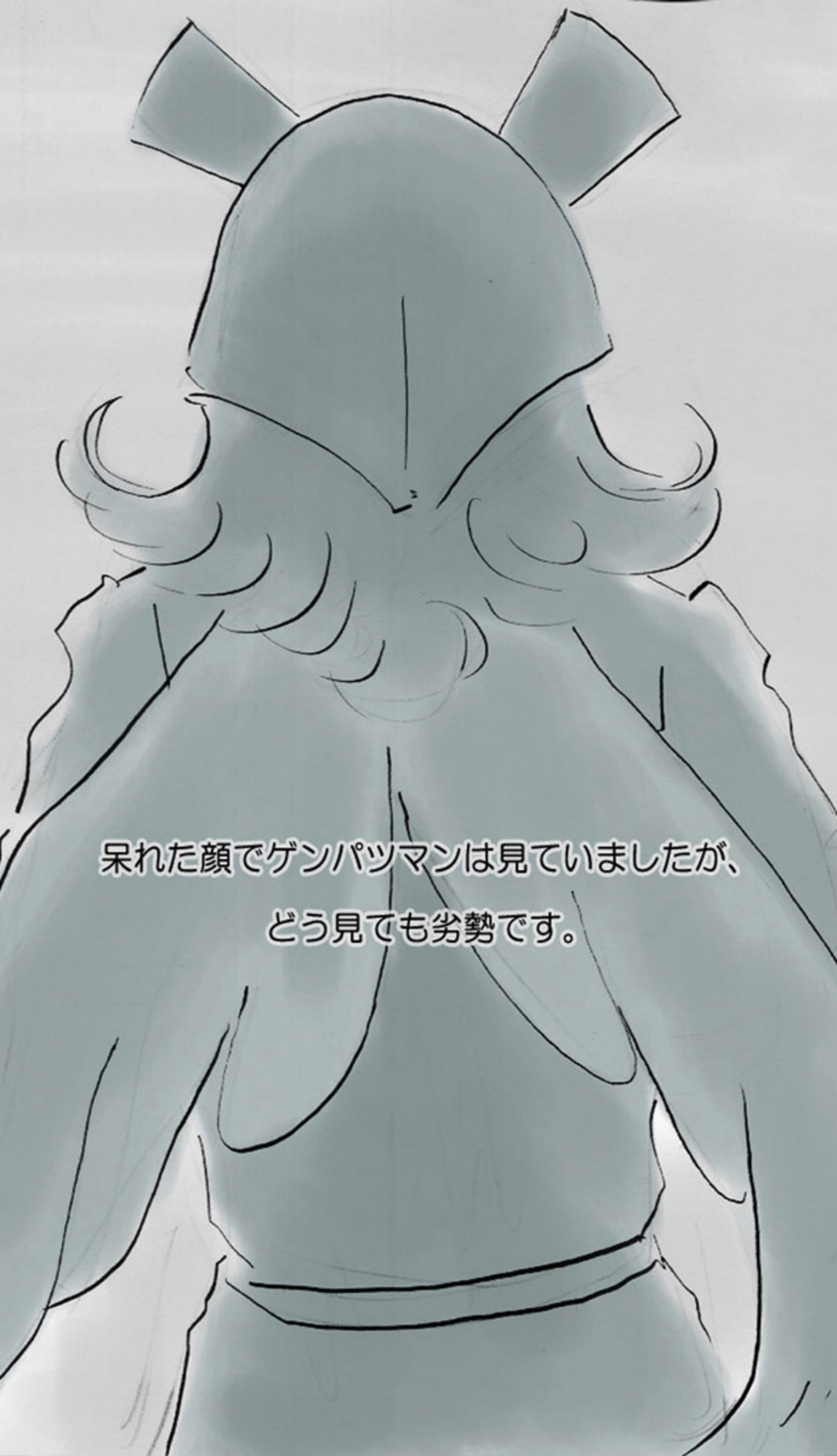
ある日、都会にオندانカイジュウが現れ
フウシャマンが兄弟たちも呼んで
10人ほどで戦っていました。



そこにゲンパツマンもやってきました。

ゲンパツマンさん
今日はもう少しだけ
僕らに戦わせてください





呆れた顔でゲンパツマンは見ていましたが、
どう見ても劣勢です。

見るに見かねて手助けしようとする

そこへやってきたのは



オレはバイオマン！
手助けします

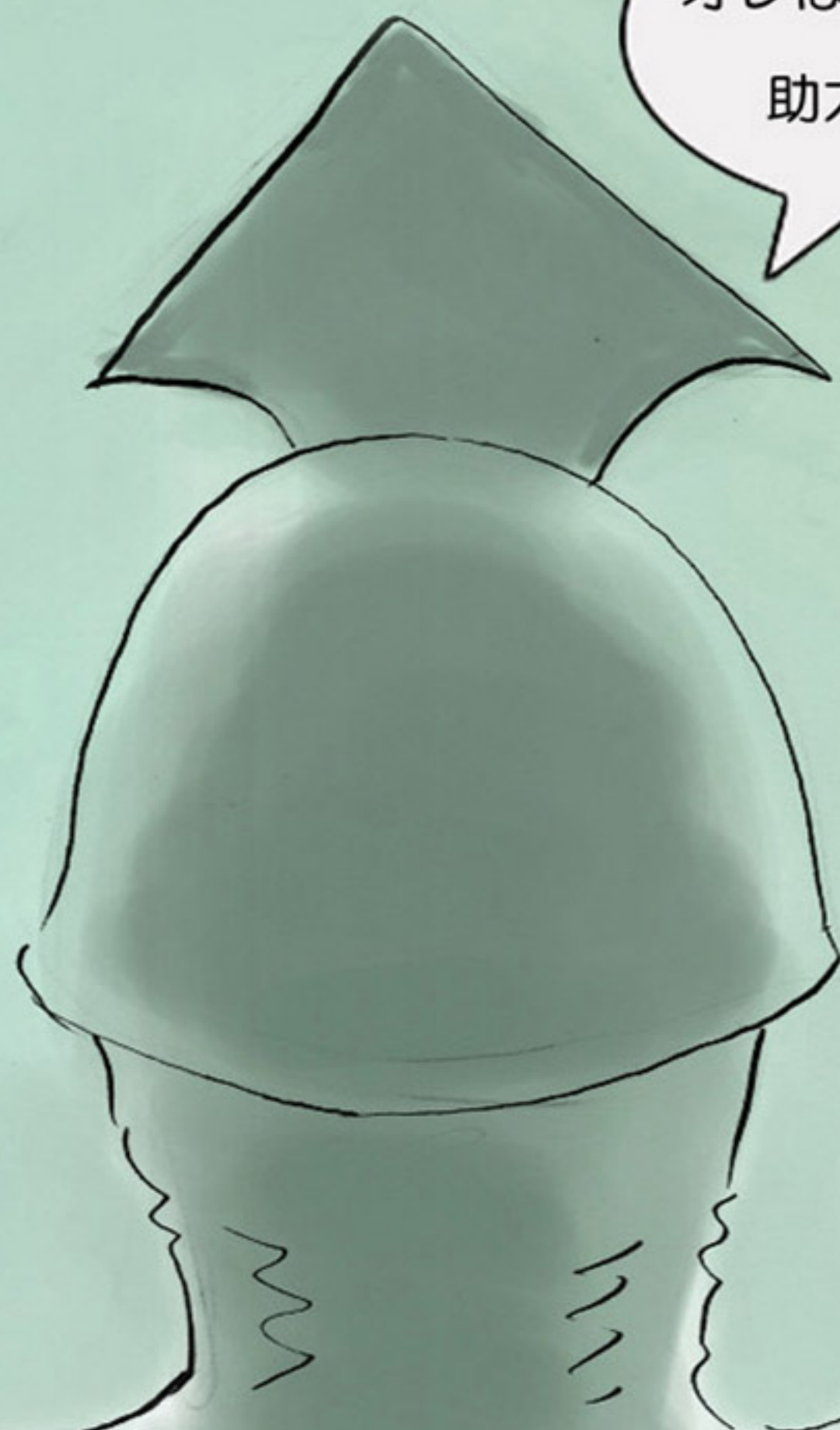
と言っていっしょに戦い始めました。

でもやっぱり劣勢です。

見るに見かねて手助けしようとする

そこに今度は

オレはチネツマン
助太刀いたす



と言っていっしょに戦い始めました。

でもやっぱり劣勢です。

呆れた顔でゲンパツマンが見ていると、そこに

わたしはタイヨウ姫
皆で戦いましょう





がぜん元気がでます。

でもようやく互角で勝負しているかなって感じです。

仕方なくゲンパツマンが
ちょっとだけ指先で手助けして
ようやくオندانカイジュウを
やっつけることができました。

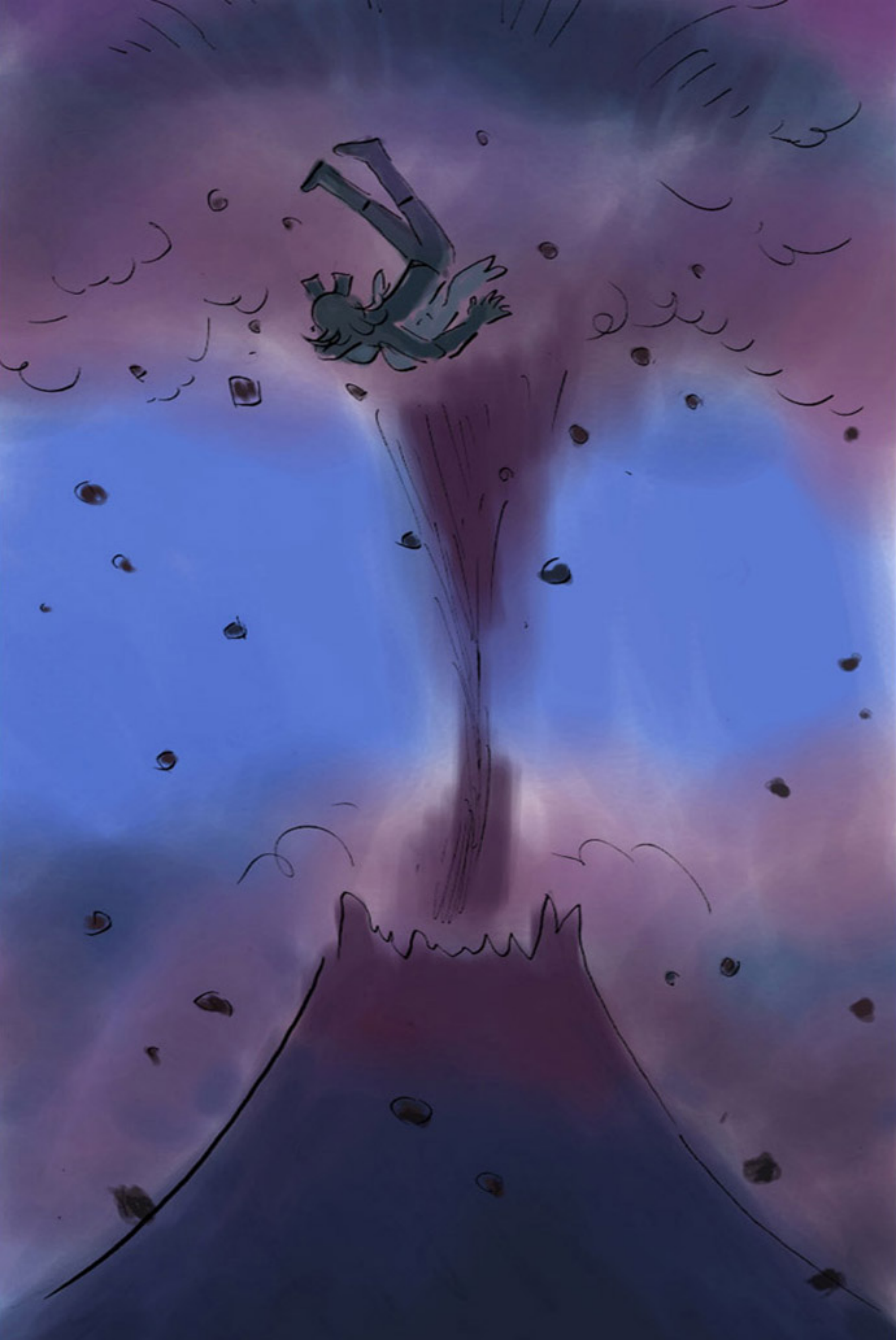
皆で喜び合いました。

その日もオンドンカイジュウが暴れだし
フウシャマンやほかのヒーローが
ドタバタと戦いをしてました。
ゲンパツマンはなかなか終わらない戦いを
近くの山のとっぺんに
あくびしながら座って眺めてました。



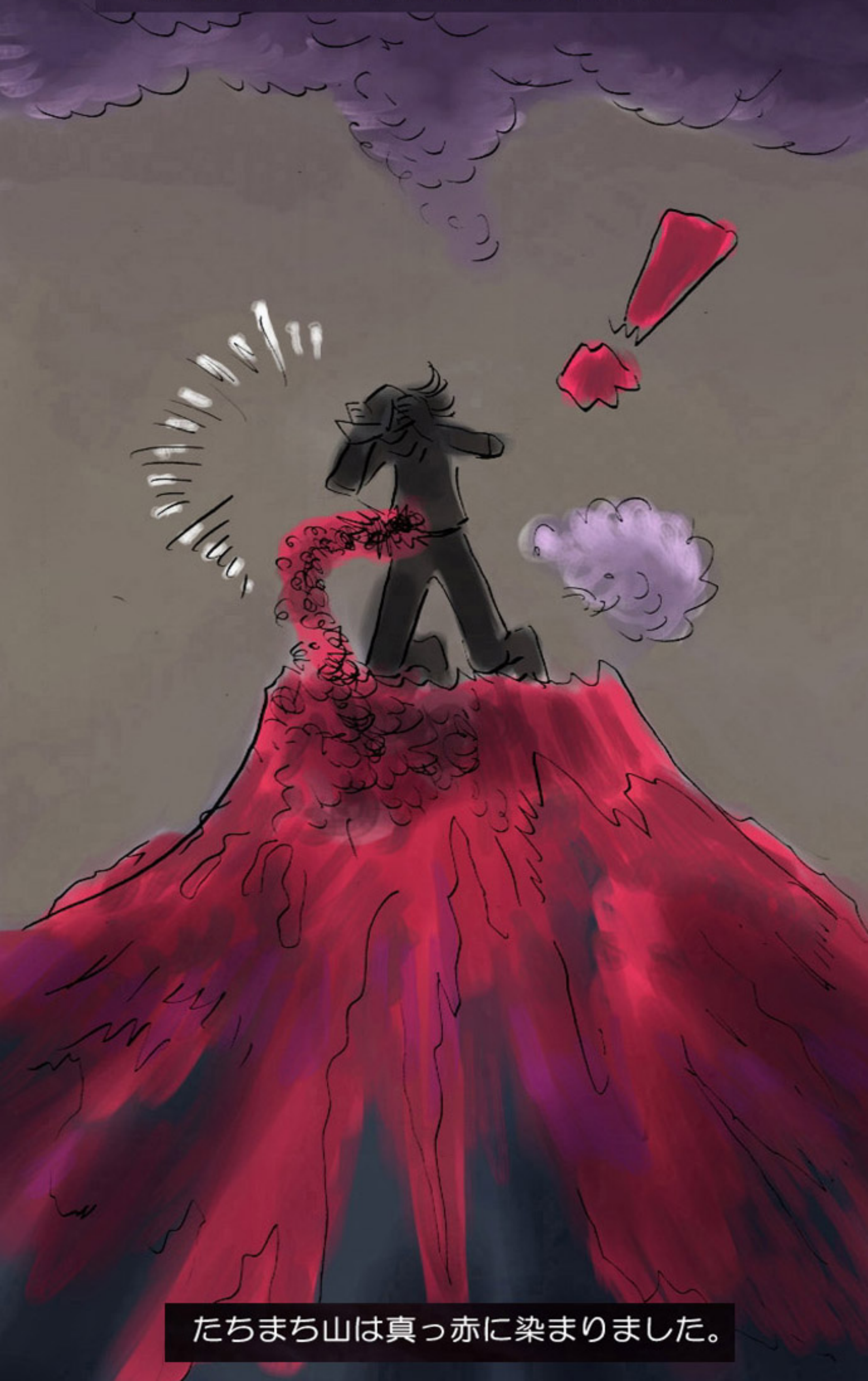


出番かな、そう思ったときに突然



その山が大噴火を起こしてしまったのです。

さすがのゲンパツマンも大きな岩にやられて
おなかに小さな穴が開いてしまいました。



たちまち山は真っ赤に染まりました。

ゲンパツマンの生みの親の
カクタ博士が飛んできて叫びました

みなさん！
ゲンパツマンの手術をするので
その間 国から離れてください！

その言葉に国王もびっくりです。

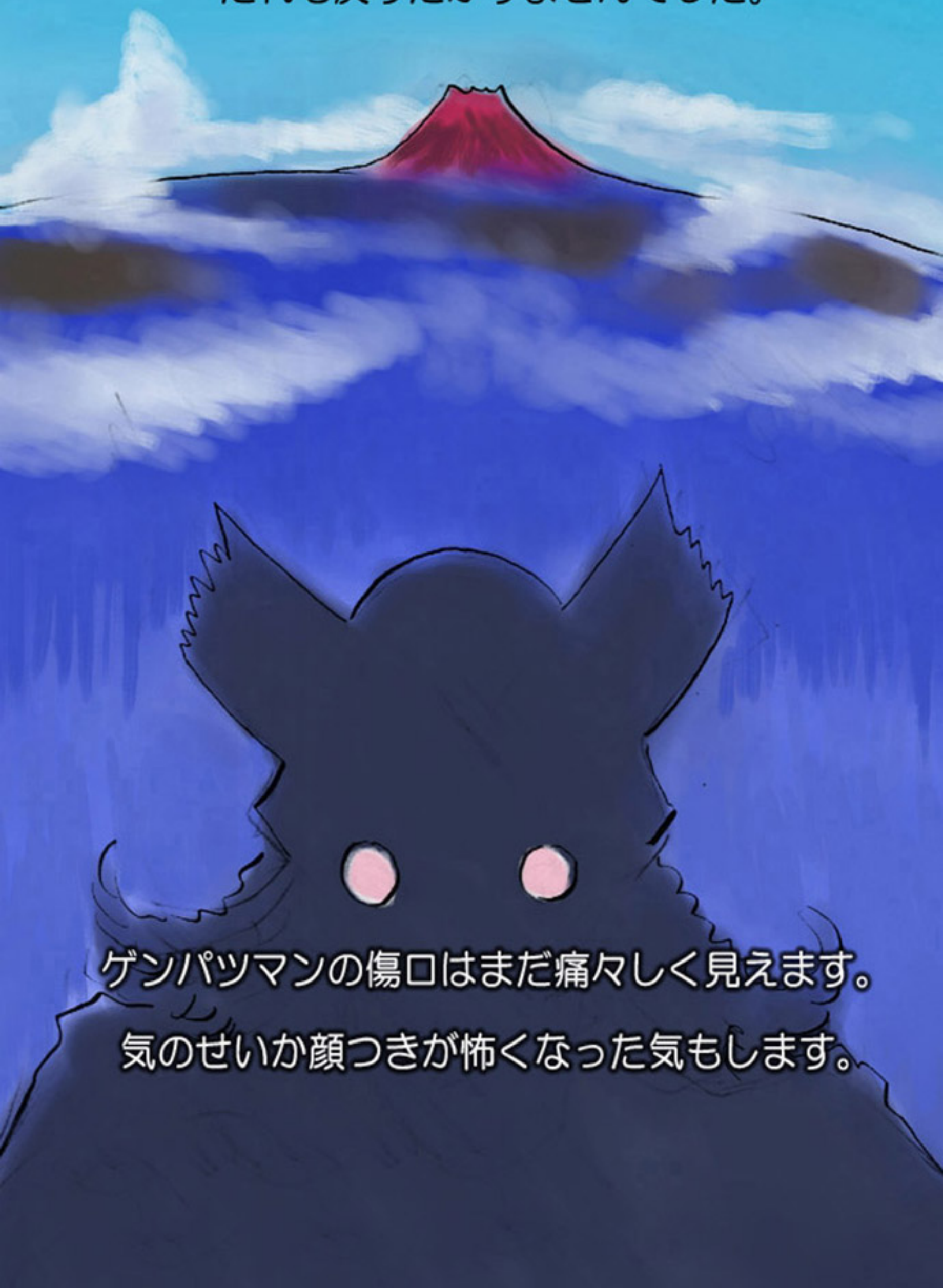
わしも国を出るの？

そうです！

みんなで隣の国にしばらくお世話になりました。

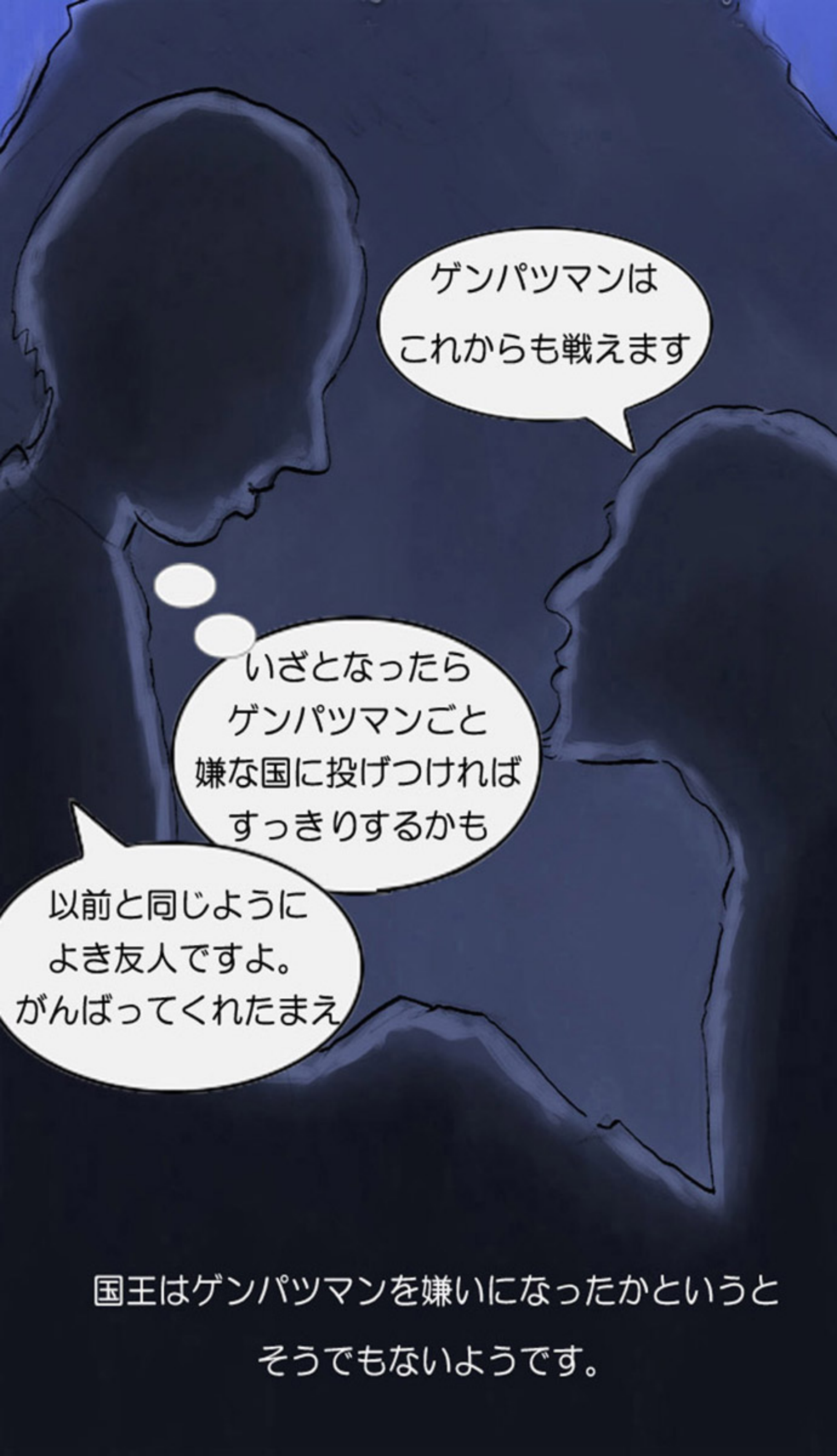
3年たって、ようやくみんな戻ってきました。

それでも真っ赤な山の近くには
だれも戻りたがりませんでした。



ゲンパツマンの傷口はまだ痛々しく見えます。

気のせいかな顔つきが怖くなった気がします。



ゲンパツマンは
これからも戦えます

いざとなったら
ゲンパツマンごと
嫌な国に投げつければ
すっきりするかも

以前と同じように
よき友人ですよ。
がんばってくれたまえ

国王はゲンパツマンを嫌いになったかということ
そうでもないようです。

オندانカイジユウは相変わらず攻めてくるのですが
町の人々はエサとなるカセストーンをなるべく使わないで
家を建てるのかしはじめました。

相変わらずフウシャマンたちは頼りなく
カゼノ博士は

もっと予算があれば
色々改善できるのに

とグチりながらも今日も研究に励んでいます。





今日も相変わらずの戦いの中で
ゲンパツマンがオندانカイジユウをやっつけると
皆は太陽ビームで焼けた木々を横目に
複雑な思いで拍手を送るのでした。

おしまい